

# 救急車で運ばれ、すぐに手術・入院できる

## 「二次救急・総合病院」 3月議会の決定で強く思う

### 市北部からなくすことは絶対に許せない!

#### 3月議会・「市立川西病院」関連議案への各議員の態度

議案	賛成した議員	反対した議員
2019 (H31) 年度から、現市立川西病院の管理・運営を協和会(協立病院)に指定管理者委託すること ※1	鈴木・大崎・平岡・大矢根・江見 森本・加藤・久保・秋田 米澤・斯波・多久和・小山 津田・岡・安田 上田・坂口 18	住田・北野・黒田 宮坂・北上・福西 吉富 7
キセラ医療ゾーンの土地(約10534㎡)を16億9590万円で購入すること(㎡単価16万1000円) ※2	鈴木・大崎・平岡・大矢根・江見 森本・加藤・久保・秋田 米澤・斯波・多久和・小山 津田・岡・安田 上田・坂口 宮坂・福西 20	住田・北野・黒田 北上 吉富 5
平成30年度病院事業会計予算について(協和会(協立病院)への指定管理委託・移行にむけて協和会職員5名を現病院へ配置) ※3	鈴木・大崎・平岡・大矢根・江見 森本・加藤・久保・秋田 米澤・斯波・多久和・小山 津田・岡・安田 上田・坂口 宮坂・福西・北上 21	住田・北野・黒田 吉富 4

「市立川西病院の管理・運営員が引継ぎのために現病院に点を指摘しました。賛成討論を協和会(協立病院)に指定管理入ることを含めた、2018 (H30) は「厳しい財政状況の中で、理者として委託する議案※ 年度予算※3がそれぞれ賛成1」が3月26日の市議会最多決されました。終本会議で、賛成18・反対7で可決されました。日本共産党議員団は、「命を守る拠点病院として守るべき」として多くの住民から白紙撤回を求め、田議員が代表して反対討論し、「急いで決めないで」の請願、要望・陳情が15本提出されました。(議員の賛否は左表) 願、要望・陳情が15本提出された。関連議案では、協和会が協立、要望署名も市長と議長に立病院の建替え用地として購入1万5058人分届けられました。入予定だったキセラ医療ゾーンを川西市が用地先行取得特別会計で購入する議案※2、問題指摘しない賛成

2019 (H31) 年度からの指定管理 賛成3人と反対3人が討た。委託の移行にむけて協和会職員論し、反対議員は計画の問題

命に関わる 救急の遅れ 構想通り、2021 (H33) 年度に病院が閉鎖されれば、市北部に二次救急・総合病院がなくなり、診療所(二次救急II MRIなどの検査や手術、入院はできない)だけになってしまいます。

来夏「計画」に意見を 一方、市はキセラ地区に新病院の建物を2021 (H33) 年建設し運営を協和会に委託。同時に現川西病院を閉鎖する予定としていますが、今夏にそれらの基本構想・基本計画をつくり市民の意見を聴くパブリックコメントを実施すると

「もしも」の時の救急搬送で、病院到着時間が10分以上長くなり、命を軽んじることになりま(市北部から近いです)二次救急・総合病院はベリタス病院)救急対応が不可欠

命に関わる 救急の遅れ 構想通り、2021 (H33) 年度に病院が閉鎖されれば、市北部に二次救急・総合病院がなくなり、診療所(二次救急II MRIなどの検査や手術、入院はできない)だけになってしまいます。



み黒 ち田

中学校もないし、これで病院までなくなったら、この地域の価値が落ちる。清掃車両基地が丸山台3丁目に来る問題もあるし・・・

高齢者も増えているけれど、子どももたくさん居る地域。二次救急・総合病院は残すべき。自治体の役割って住民の命を守ることですよ!

ご意見・ご要望 お気軽にお聞かせください。

現病院で指定管理 議会終了後の新聞報道をみた住民の方から「何が決まったのか」「もう駄目なのか」と問い合わせが続いています。この3月議会で決まったのは、①東睦野にある現市立川西病院の管理・運営を2019 (H31) 年4月から協和会が行う(2021 (H33) 年7月頃まで) ②新病院開設予定まで※4) という内容だけです。

※4 キセラ医療ゾーンに新しく建設予定の病院や北部医療の在り方、内容については、何も決まっておらず、指定管理者募集要項の特約条項に3項目(①今後市が策定する基本構想・基本計画で示されたもの。土地は市が確保) ②移転建替え計画があるので新病院の設計・建設に全面的に協力すること ③新病院は引き続き20年間、指定管理者として管理運営すること) となつています。また「※3項目については、川西市議会における関係議案の議決を経て確定します。」と記されています。

指定管理者に協和会(協立病院)が決まったけれど・・・問題だらけの経過と今後

昨年5月1日付の発表からわずか11カ月。住民の拙速を危ぶむ声を振り切つて、川西市は、なぜ急ぐのでしょうか。

北部で建替えの計画

たんぼぼだより前号でお知らせしたとおり、川西病院の問題は2009(H21)年度から検討されています。

2009年に「市立川西病院改革プラン」を策定した後、様々な実態調査やアンケートを実施。指定管理者制度については「安定的な医療提供が行われる保障がないことを懸念し、「猪名川・豊能・能勢3町の負担を求める方向」で、「市北部での建替えスケジュール」まで策定していました。

寝耳に水の発表

それが突然2016(H28)年12月13日付で、協和会から「これからの地域医療における連携・協力体制構築のお願い」文書が届き、2017(H29)年5月1日の新聞発表となりました。市民、議会、病院職員にも全く知らせず、新聞報道先行の異常さでした。

発表直前の2017(H29)年3月の新年度予算委員会では、全く話題にならず、従来通りの新年度予算を可決しています。

おさなりの説明会

発表後、市の構想(案)の市民説明会は9月23日午前、午後の各1回だけ。北部医療の説明会は2月3日1回だけ。こんな酷い、住民無視の進め方は全国的にもありません。

公文書の公開を請求

計画変更・指定管理者制度導入に至る意思形成過程について「公文書公開請求」を行いました。提出されたのは「経営会議(第2回)会議録」「協和会からの文書」のみ

近隣比、補助金最小

市財政が厳しく、病院への補助金負担ができないと説明しますが、近隣自治体と比べ川西市の一般会計規模は中位、病院への補助金は最小です。市財政ひっ迫の原因は病院経営にあるわけではなく、別にあるのです。(下の表)

タコの足食う異常

市は財源確保策の柱に、異常というべき市民の財産である公共施設や未利用地の売却をあげています。

現在、一般会計569億円のうち約93億円(16%)が委託料、そのうちの約30億円が、設計・建設・管理・運営を一括して任せるPFI手法(契約20年、ローン30年)に基づくもの。そのうえ、今回の200億円超

「否定の意見は聞かない」

重大案件の内容がこれだけ

自治体	人口(人)	2018(H30)年度予算より/下段は市民一人当たり換算			医療費無料化 (中学校卒業)	中学校 給食	高齢者 交通費補助	こども率※ 高齢化率
		一般会計予算額	市債残高	基金残高				
川西市	158515	569億円 (35万8957円)	753億円 (47万5034円)	20億円 (12617円)	×	×	12.4% 30.7%	
伊丹市	202346	695億円 (34万3471円)	606億円 (29万9487円)	68億円 (33606円)	×	○ センター	13.2% 27.4%	
宝塚市	234444	787億円 (33万5688円)	742億円 (31万6493円)	99億円 (42228円)	○ 所得制限あり	○ 自校	13.4% 27.0%	
三田市	113038	369億円 (32万6439円)	569億円 (50万3371円)	50億円 (44233円)	○ (7月~改定)	○ センター	13.1% 22.9%	
猪名川町	31425	95億円 (30万2307円)	75億円 (23万8663円)	40億円 (12万7287円)	○ 所得制限なし	○ センター	14.1% 27.5%	
西宮市	484152	1780億円 (36万7653円)	1435億円 (29万6395円)	244億円 (50397円)	○ 所得制限あり	○ 自校	14.1% 23.5%	

※ 人口は各自治体ホームページ・住民基本台帳より

※ こども率 0~14歳までのこども数の人口比  
高齢化率 65歳以上人数の人口比

川西・三田・猪名川・西宮は2018年3月末、伊丹・宝塚は同2月末

市	人口 (人)	ベッド数 (床)	一般会計 (円)	病院への 補助額(円)	市民一人当たり 補助額(円)	対一般会計比 (%)
川西	159,883 (H29.3月末)	250	545億6900万 (H29.予算)	10億1384万	6,341	1.86
伊丹	197,166 (H29.7月末)	414	680億 (H27.決算)	12億6683万	6,425	1.86
宝塚	225,216 (H29.8月)	436	782億 (H28.決算)	15億4180万	6,845	1.97
三田	113,540 (H29.7月末)	300	389億9870万 (H27.決算)	18億2900万	16,108	4.69
池田	103,348 (H29.7月末)	364	368億9900万 (H29.予算)	10億4800万	10,140	2.84

※貸付金はのぞく ※比較年度・予算・決算が違います



の100%借金(30年ローン)による新病院建設と指定管理者制度の導入は、余りにも無謀ではないでしょうか。川西病院は街の要魅力を失います。若者の流入が減り、流出が増えれば、人口減少させましょう。

と世代継承が鈍化し、税収減に。新名神高速道路・川西インターの開通で北の玄関口ができました。大阪だけでなく、新たに神戸・京都のベッドタウンとして、子育て施策を充実させ、若者を呼び込むチャンスを。そんなまちづくりを